



こきぬ

つくばみらい市立小絹中学校

生徒数 236名

学級数 10学級

当たり前のことを見直すきっかけに

～コロナ禍の教育活動を振り返って～

校長 栗原 繁則

新型コロナウイルスは未知のウイルスであったため、実態が分かるまではどの学校でも行事の中止が相次ぎました。しかし、その実態が徐々に判明してきたため、方針を転換し、感染症対策を講じながら、できることはやっていこうという方針でこの1年間臨んできました。



体育祭や創夢祭などは午前中実施としましたが、それぞれの行事が目指した目標を達成でき、満足する生徒の姿が見られました。

これまで、学校行事はその準備と運営に多くの時間を費やしてきましたが、コロナ禍は、学校の教育活動のねらいや実

施方法を根本から見直す機会となりました。

本校に勤務する教職員はそれぞれに家庭があり、生活があります。そして、生徒を成長させるために労を惜しまず指導に当たっています。これらを両立させるためには、限られた時間の中で最大限の効果を上げる方法を考えて教育活動を模索していく必要があります。



今後も、保護者や地域の皆様のお力をお借りして、生徒が自分のよさや可能性を実感できる学校づくりをしていきたいと考えております。引き続き、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

小絹中アルバム

<p>職業の魅力を伝える ～1年生 職業発表会～</p>	<p>オンラインで実験 ～2年生 授業のオンライン配信～</p>	<p>質問したり、相談したり ～3年生 自主登校～</p>



日々の生徒の様子や、学校からのお知らせなどをホームページに掲載しています。右のQRコードを読み取って、スマートフォンやタブレットからご覧いただけます。



ホームページから

魅力を広めようと努力しているところが茨城の魅力
～いばらきっ子郷土検定オンライン交流会～

「正解を見てみましょう」

2月24日（木）午後4時30分過ぎ、図書室。つくばみらい市のはっぴをきた2年生が、笠間市、大洗町、北茨城市など8つの市や町の代表中学校と共に、「いばらきっ子郷土検定オンライン交流会」に参加していました。



つくばみらい市では、市内の中学2年生が、楽しみながら茨城県の伝統や文化等を学ぶことができるよう、茨城県独自の検定「いばらきっ子郷土検定」に参加しています。11月に行われた市内大会では、昨年に引き続き、本校が市代表に選ばれ、県大会への出場権を手に入れました。

しかし、コロナ禍により水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館で開かれる予定であった県大会は、オンラインでの交流戦となりました。

「7年連続出場の小絹中学校。自信をもってがんばって」

と、教育長の福田先生も、つくばみらい市のゆるキャラ「みらいりんぞう」くんと共に、応援に駆けつけてくださいました。

各校の学校紹介の後、4択や〇×問題など、8つの問題があり、本校は4問正解することができました。

交流会を終えた生徒は、

「いばらきっ子郷土検定を通して、茨城県の知らないことを知ることができ、いい経験ができました。茨城県の魅力は、今回の郷土検定もそうですが、茨城の魅力を広めようと努力しているところだと思います。」

と話していました。

指導に当たった社会科教員は、

「2学期から、2年生全員でいばらきっ子郷土検定に向けて、取り組んできました。最近、授業の中で茨城県のニュースを紹介すると、耳を傾ける生徒が増えました。今回、生徒は茨城県に関する知識が増えたので、今後の人生の中で、実際に出かけたり、ふれたり、感じたりして、本物に触れてほしいと思います。そうすることで、この取組の真価が発揮できると感じています。」とホッとした表情で話していました。



生徒と先生のおすすめの本を購入

～青少年育成つくばみらい市民会議小絹支部の支援で～

図書室の一角に、新刊図書を集めた本棚があります。小絹中の生徒と先生のおすすめの本を集め、紹介しています。

生徒のおすすめは、昨年11月に第2学年の国語の授業で実施した、生徒が自分のおすすめの本を紹介し合った後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を行う「ビブリオバトル」で選びました。

先生のおすすめの本は、図書委員の生徒が、先生にインタビューしたものを購入しました。

購入にかかる費用は、青少年育成つくばみらい市民会議小絹支部より、支援していただきました。ありがとうございました。

